

岡山市おやこクラブネットワーク 40周年記念 座談会

語り合う… おやこクラブの40年とこれから

40周年を迎えて、歴代会長の脇本さんと小田さん、現会員の片山さんと阿曾さん、そして昭和や平成、令和のおやこクラブに関わった保健師でこれまでの40年を振り返り、これからのおやこクラブ活動について語り合いました。

当時の写真を見ると、どんどん思い出される、当時の思い出や熱い思いを聞かせていただき、歴代会長の方々が語られる言葉一つ一つが胸に響きました。このバトンをつないでいきたい、つないでいかなければいけないと思いが熱くなる会となりました。



脇本 幸子さん
昭和57・58年度会長



小田 弥生さん
平成15・16年度会長



片山 夢那さん
令和6年度会長
令和7年度40周年記念事業
実行委員長



阿曾 さやかさん
令和5年度理事
令和6・7年度副会長
令和7年度40周年記念事業
実行委員

“あの頃、あの時代に発足していなければ…”

今のおやこクラブは無かったかもしれない!!”

脇本さん）岡山市おやこクラブネットワーク発足の際に「この指と一まれ!」と指を立てたのは私です。昭和58年に実施した母子クラブ(現おやこクラブの発足前の名称)で実施した「つどいませんか、はだしになって」では、みんな集まれ～って声をかけたらまさか1,600人も集まるなんて…。こんなに来ると思ってなくて、せいぜい500人くらいかと思っていたので、本当にびっくり。これだけ、多くの親子がつながりを求めているのだ…大変だったけど、そこからは(発足に向けて話が)一気にすすんだという印象ですね。

岡崎保健師）私は、昭和58年に保健師として入庁したばかりのころ、今でも覚えています。室内や屋外にもとにかくすごい人数だったので、こどもたちがどこかにいってしまわないようにと必死だったのを思い出します。

脇本さん）そうそう、保健師さんたちも事務所に留守番一人だけ残してみんな従事するようにと指示が入ったと後から聞かされました。

保健師さんが訪問などで母子クラブに親子をつないでくれていました。当時は、全国的に子育て支援の資源が少なく、珍しい活動だったのだと思います。自治体保健師の集いに参加をして話をしたこともあり、たくさん質問をされたものです。



昭和58年 母子クラブ交流会
「つどいませんか、はだしになって」

脇本さん）そもそも地区の母子クラブの原点は、愛育委員さんが家庭教育学級を実施していて、そこに出席した際に「勉強もいいけど、こどもたちがただ遊べて、お母さんたちがおしゃべりができる場がほしい」と言ったところ、保健師さんから「そういう場を一緒に作りませんか」と提案があったんですよ。私自身もエネルギーがあって何も怖いものなしという感じでした。話し合いの中で保健師さんから「保健師も地域に戻れば一人の母親である、自分事として考えている」と言われ納得しました。

組織づくりは、保健師さんがたくさん学んでいて、仲間づくりがどうしても必要なのか、組織づくりの「いろは」を保健師さんに教えてもらったんです。保健師さんともずっとつながりがありました。

岡崎保健師）発足当時、保健師と共に何度も話し合いをしましたよね。互いに意見を出し合える密な関わりだった、そう感じます。

脇本さん）そうです。岡山市おやこクラブネットワーク発足では、行政に、しかも保健師がいる保健衛生課(現：岡山市保健所健康づくり課)に事務局を設けてほしいと、お願いをして今があります。あと発足が5年、10年遅かったら…。あの頃、あの時代に発足していなければ、今のおやこクラブは無かったかもしれないと感じています。行政とつながることで、私たちの意見が(市政に)反映されていきますから。

“妊娠期からつながる活動にしてほしい!!!”

小田さん）出産後って、とっても忙しいんですよ。たとえば、おやこクラブのことは知っていても、産後のバタバタですっかり入会のタイミングを逃すこともあると思



うんです。だから、私は妊娠中からつながって欲しいって、当時からずっと言っているんですよ。今でも、地区の活動で講師をする時には伝えています。

赤ちゃんがお腹にいるときに同じ地域に仲間ができて、生まれた後に「おやこクラブ」という帰る場所があるって、すごく安心できますよね。病院のサークルとはまた違うつながりだと思んです。おやこクラブでは、

同じ地域で同じようなタイミングで生まれた子とその保護者が、一緒に子育てをしていくことができるんです。

片山さん）確かに、産後はバタバタしています。私自身も、入会するのに1年かかりました。一人で参加する勇気もなく、保健師さんが一緒に参加してくれて、本当に心強かったです。

阿曾さん）私は、県外から岡山に引っ越してきて、長男の妊娠期はママの友達もいないまま出産をしました。長男出産後におやこクラブに入って、今では地区の会長を3年と同時に理事も3年目です。そんな中で、次男と三男の双子を妊娠しましたが、長男の妊娠期とは違って、おやこクラブにも入っていたので、仲間がいて、おやこクラブでのつながりがあるというのは心強かったです。

“出会いは五感で感じる事が大切!!!”

脇本さん）お客さんのように行くだけでよいのではなく、おやこクラブは自分たちで考えて集まる、そこが魅力の一つです。役員になれば絆も深まりますし、何かあれば集まっていました。私は高島地区ですが、当時はバスを借りてみんなで遠足に行ったこともあり、「ひよこだより」というおたよりを作っていて、よく集まっていました。今も発行が続いていると聞いています。電子化も進んでいますし、辞めようと思えば辞められると思うけど、今も続いているということは、そういった形の情報も必要なんですね。

おやこクラブの出会いって、五感で感じる事が大切…そう思んです。五感で感じるために静けさも必要ですよ。

片山さん）五感が大事…とても心に響きました。第1子の時はコロナ禍で、おやこクラブのことは知っていたものの入会はしていなかったんです。公園に行っても、最初に声をかける勇気もなく、誰とも話さず帰宅をすることも…孤独でした。

第2子出産後によくおやこクラブに入会して、「役員になったら自分から声をかけられる」と思って役員にな



りました。役員と一緒にした方とは今でもつながりがあるし、そんな仲間に出会えるのはおやこクラブの魅力だと思います。

おやこクラブに入会したことで世界が広がりました。顔を合わせる事、会って話す事…五感で感じるということ…。とても実感します。

岡崎保健師）便利になった時代だからこそ、身近でつながり相談できることの大切さ、地域の人に名前を知ってもらっている安心感がありますよね。

小田さん）私は「役員をさせて」とお願いをしました。当時まだこどもが乳児だったので、まだ小さい子がいて大変だからと断られたけど無理やり会長をさせてとお願いをしました。最初は大変だったけど、地域には愛育委員さんや町内会の先輩方がたくさんいて「あれやろう!これもやりゃええが!!」とアドバイスをもらい、会長や理事会も活気がありましたよね。懐かしいです。

“おやこクラブは虐待の予防にもなる活動!!!”

小田さん) 入会のきっかけは、家を建てようかと考えたタイミングでした。すでに知り合っている人たちの中に入るのは、すごく勇気がいりました。でも、あのとき勇気を出して入って、本当に良かったと思っています。

妊娠しているときは希望に満ちていますが、出産すると、現実はなかなか自分の時間もなくなり大変なものです。おやこクラブに入ることは、虐待の早期発見にもつながるんです。今も様々な虐待予防の会議や取り組みがされていると思いますけど、おやこクラブに入ることが一番虐待予防につながると思うんです。私は一歩を踏み出せたけど、今でも家でふつふつと子育てで悩んでいる人は絶対にいるので、是非おやこクラブにつながって欲しいと感じています。

脇本さん) 当時、県外で産後にお母さんが自殺をしたという事件があったんです。その際に、保健師さんから「自分に関係ないと思っている?」と聞かれてドキッとしました。「私たち(保健師)はこういった方々のところに明日、明後日と毎日行ってあげられない。」と言われたんです。子育てに不安やしんどさを感じている方を地域の中で気付ける人が必要だし、地域にそういった居場所があったらいいな、それがおやこクラブなんです。

在宅の子がゼロになることなんてないんだから、おやこクラブは必要なんですよ。



“一人の女性としての役割を見つけた!!!”

脇本さん) 私は岡山市おやこクラブネットワークを立ち上げた責任もあり、その成長を見守っていきたいという思いもありました。一方で一人の女性として、何か(役割を)持っていたいとわらべうたのことを勉強して、「岡山わらべうたの会」を立ち上げました。今でも、高島公民館で「いっしょにたのしむ わらべうた」を実施して、ひ孫も一緒に楽しんでいるんですよ。

卒会後も託児要員で地区のおやこクラブ活動に参加していたのを思い出します。

片山さん) 今は、子育て真っ最中ですし、おやこクラブの会員として活動していますが、卒会した後も何かできることがあれば…そう感じます。

小田さん) 私も子育てをする中で「私、このまま子育てで終わるのかな」と思ったんです。自分の存在意義を探していたんだと思います。だから、おやこクラブでも積極的に「良い活動にしたい」と色々な提案をしました。各地区で講師を呼んで交流をしているんだしたら、「みんなで共有しようよ」と講師一覧の作成を私が提案したんです。今では、自分がバルーンアートの講師として各地区の活動に参加するようになるなんてね。バルーンアートとの出会いもおやこクラブ活動の中ですから、おやこクラブに入っていたから、今があるんですよね。



岡山市おやこクラブネットワーク40周年記念式典

令和7年12月12日(金) 岡山ふれあいセンター 大ホール

記念式典

おやこの笑顔、地域と共に ～おやこクラブ活動の40年を振り返り、未来を語る～



式次第

- 開会の辞
- 来賓紹介
- 来賓祝辞
- 岡山市おやこクラブネットワーク
40年のあゆみ
- 記念シンポジウム
おやこの笑顔、地域と共に
～おやこクラブ活動の40年を振り返り、未来を語る～
コーディネーター
岡崎 尚子氏(岡山っ子育成局 参事監)
パネリスト 佐藤 暁氏(岡山大学名誉教授)
脇本 幸子氏(昭和57・58年会長)
小田 弥生氏(平成15・16年会長)
岩見 芳乃氏(令和元・2年会長)
- 閉会の辞

脇本さんからのメッセージ

地区において積み重ねてきた地域に根ざした活動として始まり、何度も対話を重ねて発足に至った。その際には、全国の子育て環境の課題も自分事と捉え、保健師も同じ立場で一緒に考え何度も話し合いを重ねてきたことを覚えてほしい。



小田さんからのメッセージ

勇気を出して入会して、孤独な子育てから抜け出した。「おやこ」が“ひらがな”なのは、決して「親」だけが子育てをするのではないから、周りに頼っていい。この活動に参加しているのは、これからたくさんの人に会えるチャンスです。

岩見さんからのメッセージ

コロナ禍で活動自粛などを経験し、様々な意見がある中で決めていくのは大変だった。子育て環境が変化しても「安心して子育てができる環境」が大切なことは変わらない。おやこクラブOGとして、これからも、全力で応援しています。



佐藤 暁先生から

子育てをしている人・子育てをしている人を
支えたいと思っている人へのメッセージ

○独りぼっち、
(こどもと)二人ぼっちにならないこと

自分(たち)のことを待っていてくれる人がいる「居場所」があることが大切です。

○子育ての「どうしたらいい?」の答え合わせ

「どうしたらよいか」と尋ねて答えをもらうことは大切ですが、それ以上に「これでいい」「今していることで大丈夫」「分かる」と言ってもらえることが子育てには必要です。

○楽しい経験がこどもを育てる

こどもの記憶に残る、またしたいと思える「出来事」やこども同士の出会いが大切。こどもが喜んでくれたら、それで十分です。「楽しい」「自分らしい」と思えた経験が自分の存在意義につながります。こどもの記憶に残る「出来事」をつくってあげましょう。

○人に助けてもらうこと

人に助けてもらうことは、難しいし、勇気がいること。自分が語りだしても傷つかなくてすむ人を見つける出会いをしてほしい。

これらを叶えるのが
「おやこクラブ」



佐藤 暁先生

「人は、できることしか頑張れません」
「大丈夫、何とでもなります」

おやこクラブOGによる

親子の交流会

「エレフーン演奏&バルーンアート クリスマスVer.」

by おやこクラブOG 小田 弥生氏、原 靖枝氏



原さんやサンタさんから 演奏と歌のプレゼント♪



バルーンのやよいさん登場! 「何ができるかなー?」
お母さんたちの“真剣”じゃんけん対決
素敵なバルーンアートgetに大はしゃぎ♪